

令和3年度 福島区社会福祉協議会 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルスが全世界にまん延し、すべての人々の行動が著しく制限されてきました。日本において、またこの大阪市福島区においても同様であり、国から新型コロナウイルス感染症対策、感染予防が最優先され、三密を避け、集団感染しないように、措置がとり続けられました。

福島区社会福祉協議会においても、コロナ禍における「新しい生活様式」など、事業や活動で新型コロナウイルスに感染しないよう注意喚起を促し、行事は、リモート(オンライン)で行うなど工夫を重ねて事業を止めることなく実施して参りました。

緊急事態宣言下やまん延防止に関わる重点措置発令時では、老人福祉センターや子ども・子育てプラザの利用が制限されました。地域においても、コミュニティセンターや会館の使用が制限され、そこで行われている高齢者食事サービス活動やその他のサロン活動、地域活動なども中止を余儀なくされました。

福島区社会福祉協議会では、このようなコロナ禍でしたが、区内のすべての福祉活動を中止するのではなく、区内10地域の活動者と連携をしながら、コロナ禍においても実施できる福祉活動については、活動の維持、継続を目標に努めて参りました。

福島区では、大型高層マンション等の建設による転入者等により、人口は年々増加しており、子育てや介護の問題、児童・高齢者・障がい者等の虐待問題、子どもの貧困や生活困窮をめぐる生活問題、特殊詐欺被害を含む消費者問題等、近隣や地域との関係の希薄化も含め、地域における福祉課題が増加し、多様化・重複化しておりますが、コロナ禍においても、このような福祉課題について解決できるように取り組みました。

1. 会 議

令和3年5月17日 監事による会計監査

5月21日～31日 理事会(書面審査)

6月9日～18日 評議員会(書面審査)

6月18日 理事会

6月18日 地区・校下社協会長会

6月18日 地域ネットワーク委員長会

6月18日 善意銀行運営委員会

6月28日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

9月30日 福祉基金(植本・小林・手嶋基金)運営委員会

12月21日 地区・校下社協会長会

12月21日 地域ネットワーク委員長会

令和4年3月11日 ボランティア・市民活動センター運営委員会

3月18日 理事会

3月18日 地区・校下社協会長会

3月18日 地域ネットワーク委員長会

3月29日 評議員会

2. 事業概要

(1) 会員の募集

①基本会員(役員・組織構成会員) : 92人

②賛助会員 個人 : 231人 / 団体 : 20団体

(2) 地域福祉活動推進支援

①地区・校下社協活動等への支援

地域の高齢者や障がい者、児童など誰もが地域で安心して生活できるよう地域住民の参加と協力による支えあい、助けあい活動を小地域で実施する事業推進のための支援を行った。

- ア 地区・校下社協会長会の開催（全3回）
- イ 地域ネットワーク委員長会の開催（全3回）
- ウ 子育てサロン連絡会の実施（1回）
- エ コミュニティサロン連絡会の参画（全5回）
コミュニティサロン講座の開催（1回）
- オ 地域福祉コーディネーター連絡会の参画（全12回）
- カ キャラバン・メイト連絡会の開催（全6回）
- キ 認知症サポーター養成講座の開催（全12回）
認知症サポーター養成講座受講者数・・・159名
- ク 地域福祉活動カレンダーの作製4,000部
- ケ 地域子育て応援マップの作製5,500部
- コ 子育て情報紙「フッピィキッズ」43、44、45号の
発行支援

②地域福祉推進への参画・推進

こどもの居場所づくり立ちあげに向けての協議の場設定と支援
（56回）

③地域支援システムの推進・参画

- ア 高齢者支援部会の開催（4回）
- イ 高齢者虐待防止連絡会議の参画（1回）
- ウ 地域自立支援協議会の参画（3回）
- エ 子育て支援連絡会の参画（3回）

（3）福島区社会福祉施設連絡会の運営

①連絡会の開催（全1回）

②福祉イベント

新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止

③社会福祉施設連絡会職員向け研修会

新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止

④地域貢献

新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止

(4) 広報・啓発活動の推進

①機関紙「福島区社協あいあいだより」の発行（タブロイド版4面）

4月に第83号、8月に第84号、12月に85号を各23,000部発行した。

②子育て情報誌の発信

ア 子育て情報紙『フッピーキッズ』の発行支援（年3回）

イ 地域子育て応援マップの作成・発行（5,500部）

③インターネットや回覧等による情報提供

ア 区社協ホームページで区社協事業や福祉・ボランティア活動に関する情報提供

イ 区社協フェイスブックによる情報発信（49回）

ウ 各種講座等のチラシ・ポスターの掲示、回覧

④その他

ア 区社協パンフレットの配布

福島区への転入者に配布

(5) ふれあいイベントの開催

区内の社会福祉施設・ボランティア・地域活動協議会などによる日頃の活動紹介・交流や福祉について啓発を行う目的で、第20回あいあいまつりの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け延期。令和4年度2月の開催を目指し、引き続き実行委員会での検討を行っていく。

(6) 福島区ボランティア・市民活動センターの運営

①情報の収集・発信（啓発・広報）

福島区社協だより、広報ふくしま、ボランティア活動情報誌『COMVO』等にボランティア講座受講生募集・イベントの周知・ボランティア活動者募集・助成金周知等の記事の掲載を行った。また、ボランティアに関する情報発信のため、「あいあいボランティアだより」の発行を行った。

②事業企画

障がい児スポーツ・レクリエーションひろば

新型コロナウイルス感染症により開催なし。

③ネットワークの構築

ア ボランティア・市民活動団体連絡会（全1回）

イ みんなのサロン“あいあい”の開催（全7回）

福島区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアによるパフォーマンス（演奏や踊り・体操など）の披露

参加者：延べ65人

ウ 福島区コミュニティサロン連絡会の参画（全5回）

④活動への支援

ア 福島区内で活動している福祉に関するボランティアグループ・団体に対して、助成金を交付し活動を支援

a 福島区ボランティアグループ助成金：10団体380,000円交付

b 福祉ボランティア活動応援資金：7団体240,000円交付

c 福祉基金：植本・手嶋基金2団体80,000円、小林基金1団体50,000円交付

イ ボランティアグループへ場所・備品（印刷機、紙折り機、拡大機）等の提供

a 会議・練習等活動のための部屋の利用（19団体利用）

b 活動に必要な資料等作成のため印刷機等の使用（23団体利用）

⑤福祉教育・研修の推進

開催日	対象	内容、共催・協力団体等
11月20日 (土)	玉川小学校5年生 2クラス80名	・東日本大震災を題材にした語りの防災教育（希望の木等）

		講師：個人ボランティア
1 1 月 2 5 日 (木)	福島小学校 3 年生 2 クラス 6 7 名	・ 視覚障がいについて (当事者講話・アイマスク体験) 講師：カラフル大阪
1 2 月 1 5 日 (水)	福島小学校 6 年生 2 クラス 5 2 名	・ 障がいについて (当事者講話・車いす体験) 講師：個人ボランティア
1 2 月 1 6 日 (木)	福島小学校 2 年生 2 クラス 5 2 名	・ 発達障がいについて 講師：ぽっかぽか
1 月 1 9 日 (水)	八阪中学校 1 年生 4 クラス 1 4 9 名	・ 障がいについて (当事者講話) 講師：個人ボランティア ※新型コロナウイルス感染症予防のため、 オンラインにて配信
1 月 2 2 日 (土)	大開小学校 5 年生 2 クラス 6 2 名	・ 東日本大震災を題材にした語りの防災教育 (希望の木等) 講師：個人ボランティア ※新型コロナウイルス感染症予防のため、 オンラインにて配信

※他 4 件依頼があり調整していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

⑥ ボランティア活動支援 (459 件)

活動登録・ 需給調整	相談・問合せ 対応	グループ等へ の支援	ボランティア の養成	福祉教育 の推進
105 件	165 件	94 件	17 件	78 件

⑦ ボランティア活動の紹介 (令和 4 年 3 月末)

ア 個人・団体登録状況

個人登録者：90 人 (新規登録者：8 人)

団体登録数：66 団体 (新規登録団体：3 団体)

イ ボランティア活動回数件：540 件 (前年度：890 件)

ウ ボランティア活動延人数：4,876 人 (前年度：5,840 人)

⑧ ボランティアの養成・育成

養成講座名	実施日	参加者
こどもの居場所活動ボランティア養成講座	4月27日(火)	11名
はじめてみ～ひん？ボランティア講座	5月29日(土)	4名
オンライン(ZOOM)ボランティア養成講座	① 10月19日(火) ② 10月26日(火) ③ 11月9日(火)	9名
災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座	① 11月20日(土) ② 11月27日(土) ③ 11月30日(火)	15人
精神保健福祉ボランティア養成講座	① 2月7日(月) ② 2月14日(月) ③ 2月21日(月) ④ 2月28日(月)	6人

⑨ ボランティア総合保障制度(ボランティア保険)受付業務

個人ボランティアおよび諸団体・グループのボランティア活動を対象にボランティア活動中の予測しえない事故を補償する『ボランティア活動保険』および、行事中の事故に対応する『ボランティア・市民活動行事保険』等への加入を促し、その受付業務を行った。

ボランティア活動保険	Aプラン	41件	244人
	Bプラン	7件	100人
	Cプラン	3件	207人
ボランティア・市民活動行事保険	I型A区分	109件	5,064人
	I型B区分	0件	0人
	I型C区分	0件	0人
	II型	0件	0人
	III型	6件	390人

非営利・有償活動団体保険		5件	31人
移送中事故傷害保険		受け付けなし	

⑩災害ボランティアセンターに関する業務

ア 災害訓練に向けた区社協職員事前研修（全2回）

イ 訓練に向けた事前協議（4回）

ウ 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座（全3回）

エ MCA無線通信訓練（12回）

実施日：毎月第4火曜日実施

オ 玉川地域避難所開設訓練参加

開催日：9月18日（土）

カ 海老江東地域避難所開設訓練参加

開催日：11月28日（日）

キ 区社協災害訓練（福島区役所合同）

災害対策本部設置運営訓練、避難所開設訓練、災害ボランティアセンター運営訓練

開催日：12月4日（土）

ク 吉野地域避難所開設訓練参加

開催日：12月19日（日）

ケ 市・区社協合同災害対策本部設置訓練

開催日：12月22日（水）

コ 災害用品の購入（備品及び備蓄用品）

サ 防災マニュアルBOOKの作成（5000部）

各コミュニティセンター、福祉センター等へ設置。

要援護者等見守り活動にて配付。

（7）障がい者福祉に関する事業

①点字本・点訳絵本の作成と貸出・寄贈

②福島区広報ふくしまの朗読テープ作成と貸し出し

(8) 地域福祉に関する事業

①車いす貸出事業

区内在住・在勤の方対象に、車いすの貸し出し（2週間）を実施

貸出し件数：99件（保有台数28台）

②スロープ貸出事業

区内在住・在勤の方を対象に、貸し出し（短期間：2週間程度）を実施。

貸出し件数：0件（保有台数6台）

③福祉用具貸出事業の実施

高齢者疑似体験セット・アイマスク・車いす・車いす用スロープ

貸出し件数：0件

(9) 高齢者福祉に関する事業

高齢者敬重訪問…令和3年度中に満100歳を迎える高齢者（対象者14人）に、記念品を贈呈。例年は区社協会長、区長、地区・校下社協会長等と訪問をしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため対象者宅へ送付した。

(1 0) 善意銀行の運営

①ボランティアグループ・団体等への払出し 7件

②歳末助け合い運動に対する払出し 4件

③各種行事等に対する払出し 10件

(1 1) 地域における要援護者の見守り支援ネットワーク強化事業

平成27年4月より「見守り相談室」をあいあいセンターに設置。地域と行政が要援護者の情報を共有することで、孤立死の予防や災害時の避難支援、また認知症高齢者等の行方不明時の早期発見を図る。

機能①地域の見守り活動への支援

同意書を対象者に郵送または見守り支援ネットワークカーの訪問により同意確認を行った。また、要援護者名簿の整備・管理を行い、地域での見守り活動が円滑に行えるよう、地域の見守り活動者に対し支援を行った。

- 対象：① 65歳以上高齢者で要介護3以上の方または要介護2以下で日常生活自立度Ⅱ以上の方、区要援護者名簿登録者
② 身体障がい1・2級、視覚・聴覚障がい3・4級、音声・言語機能障がい3級、肢体不自由3級、知的障がいA、精神障がい1級
③ 難病患者（医療機器などへの依存度の高い人）

ア 同意確認書の郵送（再発送含む）

第1回目	9月1日	481人
第2回目	3月10日	426人
合計		907人

イ 返信374人（返信率41.2%）

同意：274人 不同意：100人

ウ 訪問16件（回答率100%）

同意：16人

エ 地域へ要援護者名簿の提供（令和3年11月1日発行）

提供先：各地域の地域振興会、地区・校下社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、地域女性団体協議会

機能②孤立世帯への専門的対応

ア 相談実人員192人

男性：83人 女性：109人

イ ひきこもり親の会「しまりす会」開催

奇数月第2土曜日（全4回）参加者数延べ29人

※全6回予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、5月と9月は中止した。

ウ 発達障がいの啓発講座の共催

年 9 回（8 月 1 4 日～3 月 5 日）※すべてオンライン実施
アセスメントから見える困り感に寄り添う支援、合理的
配慮を知ろう、アンガーマネジメントを学ぼう、発達に
課題がある方のライフスキルトレーニング等のテーマ
で研修を実施。

機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見

ア 発見協力者 1 9 7 件（民生委員・地域活動者・各種団体など）

イ 事前登録者 6 8 人（男性：2 5 人 女性：4 3 人）（累計）

ウ 行方不明発見依頼 5 件

配信依頼：区内 2 件 区外 2 件 市外 1 件

発見場所：区外 4 件 市外 1 件

エ 徘徊認知症高齢者位置情報探索事業（GPS 利用）2 件（累計）

オ 警察からの支援対象事案情報提供

4 4 件（実人数 男性 1 4 人、女性 2 3 人）

その他

ア 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業の実施

6 5 歳以上のひとり暮らしの方を対象に、事前に家の鍵を
お預かりし、緊急と判断された時には鍵を使って家の中に
入り安否を確認する事業をモデル地域（海老江西地域）にて
モデル実施。

イ 各種会議への参加

自立支援協議会、高齢者支援部会、支援調整会議、地域福祉
コーディネーター連絡会、居宅介護支援事業者連絡会へ参加
し見守り相談室の業務及び要援護者名簿を活用した見守り
活動への協力依頼や周知、広報等を行った。

ウ 各種研修会への参加、開催

新家地域見守り活動者研修会への参加や、企業（水道会社）
に対し見守り活動についての研修会を開催した。

(12) 生活困窮者自立支援事業

平成27年4月1日から大阪市より受託し、福島区役所3階に「生活あんしん相談窓口（生活自立支援相談窓口）」を開設。引き続き令和4年4月1日から令和7年3月31日まで3年間受託し事業の実施を行う。

① 相談実績

ア	新規相談受付件数（本人未特定を含む）	313件
イ	プラン策定前支援終了件数（初回スクリーニング時）	203件
	a 情報提供のみで終了	173件
	b 他機関へのつなぎで終了	30件
	c スクリーニング判断前に中断・終了	0件
ウ	支援決定・確認件数（再プランを含む）	65件
エ	就労支援対象者数（プラン期間中の一般就労を目標）	45件

② 支援調整会議

ア	支援決定・確認件数（再プランを含む）	65件
イ	評価実施件数（再プラン含む）	65件
	a 終結	50件
	b 再プランして継続	15件
	c 中断	0件

③ 事業実施・協力

- ア 福島区社会福祉協議会イベント「あいあいまつり」で出張相談会を開催予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。
- イ 福島区役所保健福祉課主催の支援会議出席し、各窓口担当と事例検討やロールプレイを実施し連携の強化に努めた。
（計5回実施）

④ 周知・広報

- ア カード型チラシの追加作成合計10,000枚（周知広報・事業説明）
- イ 福島区社会福祉協議会ホームページへ事業内容を掲載
- ウ 福島区社会福祉協議会広報紙「あいあいだより」や「かいご・

情報ガイドへ事業内容を掲載

エ 地域福祉コーディネーター連絡会でカード型チラシを配付
オ 福島区内主要駅5か所へチラシを設置

(JR海老江・新福島・野田、大阪メトロ野田阪神・玉川)

カ 区役所内全ての窓口へカード型チラシを設置

キ 地域への周知広報・事業説明

a 各地域の民生委員会議で全民生委員へ事業周知

b 地域福祉コーディネーター連絡会に参加

c 高齢者支援部会（生活支援体制整備事業 協議体会議）に参加
し事業説明

d 各地域の町会長会議で全町会長へ事業周知

(13) 生活支援体制整備事業

平成29年11月より生活支援コーディネーターを配置し、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、多様なニーズや社会資源の実態を把握して、必要なサービスや社会資源を創出するよう努めた。

① ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

ア 情報収集及び一覧表等の把握と整備

地域包括支援センター等と連携し、生活支援サービスの情報や各相談窓口等の情報を掲載した「シニアのための暮らしのお役立ち情報ガイド」を作成。地域包括支援担当や見守り相談室、地域支援担当等で毎月1地域ずつ地域アセスメント会議を開催。小地域ごとの地域課題等の分析・情報の蓄積をおこなった。

イ 協議体の開催（全4回）

開催日：5月13日（木）、9月9日（木）、
11月11日（木）、3月10日（木）

※対面型、オンラインの両方のハイブリッド型で開催。

② 講座等の開催

ア 「お家でできるボランティア活動～園芸編～」（全3回）

開催日：9月13日（月）、10月4日（月）、
11月8日（月）

内容：園芸についての講義・実習等

開催場所：あいあいセンター 2階 多目的室・福島育成園

参加人数：10人

イ 「オンライン(ZOOM)ボランティア養成講座」(全3回)

開催日：10月19日(火)、10月26日(火)、
11月9日(火)

内容：ZOOMの基本操作やミーティング開催方法等の講座・自宅での実践等

開催場所：あいあいセンター・ZOOM(自宅等)

参加人数：9人

ウ オンライン健康体操部(全8回)

開催日：10月5日(火)、10月12日(火)、10月19日(火)、10月26日(火)、11月2日(火)、11月9日(火)、11月16日(火)、11月30日(火)

内容：ZOOMの操作方法についての講座、ZOOMによる「ごぼう先生の健康体操DVD」配信

開催場所：あいあいセンター、ZOOM(自宅等)

参加人数：10人

エ 勉強会「サロン活動におけるSNSの活用事例を知ろう」

開催日：1月15日(土)

内容：コミュニティサロンにおけるSNSの活用方法

開催場所：あいあいセンター 2階多目的室

参加人数：12人

オ 「福島区の居場所づくり活動を知ろう」

開催日：3月5日(土)

内容：講義「地域に居場所【サロン】はなぜ必要？」、
活動報告、パネルディスカッション

開催場所：あいあいセンター、ZOOM

参加人数：36人

カ オンラインde認知症カフェ

開催日：3月28日(月)

内容：フルート演奏、「認知症本人大使」の動画視聴、
交流会

開催場所：あいあいセンター

参加人数：4人

③活動の場の発掘・開発

社会福祉施設連絡会を対象に園芸を通じた居場所づくり活動に関するアンケートを実施し、活動の場の調整をおこなった。

④サービス実施情報の周知

「シニアのための暮らしのお役立ち情報ガイド」を作成し、地域や各関係機関、店舗等に配付・周知をおこなった。コミュニティサロン・子ども食堂の情報を掲載した福島区コミュニティサロンカレンダーを毎月発行。各関係機関への配布、ホームページに毎月掲載、年4回の区広報版掲示等でサービス実施情報の周知をおこなった。情報発信をおこなった。

⑤その他

協議体会議において、独居高齢者の緊急安否確認に関する課題があがっていたことから、緊急時安否確認(かぎ預かり)事業を立ちあげる。区社協で複数回ワーキングを行い、地域の会議に出席・説明を行い、海老江西地域でのモデル実施の了承を得る。令和4年1月から、海老江西地域でモデル実施開始。見守り相談室と連携し、引き続き周知をおこなう。

(14) 地域の福祉活動サポート事業及びふくしま暮らし支え合いシステム事業

①地域の福祉活動サポート事業

平成28年度より、各地域のコミュニティセンターや福祉センターに相談窓口「みんなの相談室」を設け、地域事情に詳しい人材を「地域福祉コーディネーター」として配置。相談や情報提供、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業の推進等に取り組んだ。

また、毎月1回事務連絡会を定例開催し、情報交換の他に研修を実施し、資質向上を図った。

ア 相談・安否確認・見守り把握・開室日数など

a 相談ならびに安否確認を含む件数…6, 353件

訪問：500件 来館：4, 563件

電話：1, 290件

b 見守り・状況把握

延べ人数35, 382人

c 開室日数（延べ日数）… 1, 932日（※在宅勤務数含む）
 （平日1, 889日・休日43日）

※緊急事態宣言のため4月・5月は在宅勤務となる

イ 地域福祉コーディネーター事務連絡会 実施内容

	開催日	主な内容
1	4月 9日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため時間短縮で開催。研修なし
2	5月14日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面開催
3	6月11日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面開催
4	7月 9日	○報告書の説明
5	8月 6日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面開催
6	9月10日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面開催
7	10月8日	○福島警察署による詐欺被害、災害対策について
8	11月12日	○くらしの便利帳について
9	12月10日	○日常生活自立支援事業について
10	1月14日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため時間短縮で開催。研修なし
11	2月 4日	○新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面開催
12	3月11日	○報告新様式の説明について

ウ 周知、広報

a 「広報ふくしま」に9月号掲載

②ふくしま暮らし支え合いシステム事業

公的サービスの対象とならない軽微なニーズに対して、地域住民の中から、有償ボランティア（サポーター）を募り援助する本事業について、平成28年度より福島区社会福祉協議会が受託し運営を行った。令和3年11月より、利用料金を2ランク制に改定。

車いす介助、家具等の重いものの移動、認知症の対応、技術を要するもの等は30分600円。掃除、買い物代行、蛍光灯取替え、話し相手等は従来通り30分300円。

ア 利用者・サポーター登録数

利用登録者数	サポーター登録者数
--------	-----------

男性	女性	計	男性	女性	計
110人	356人	466人	26人	66人	92人

※令和3年3月末現在と比較して

- ・利用登録者数は、計24人増（男性9人・女性15人）
- ・サポーター登録者数は、計3人増（男性1人・女性2人）

イ マッチング数

合計750件（男性依頼者320件、女性依頼者430件）

ウ サポーター研修・交流会 実施内容

	開催日	主な内容
1	5月15日	ボランティア講座「ボランティア活動とは」 講師：大手前整肢学園 後藤光弘氏 緊急事態宣言中のため延期
2	5月29日	ボランティア講座「ボランティア活動とは」 講師：大手前整肢学園 後藤光弘氏 緊急事態宣言中のためリモートで開催
3	1月29日	「ヤングケアラーを知る」 講師：立命館大学 大学院生 川西 優氏 まん延防止等重点措置のため延期

(15) その他

①安全衛生委員会の開催

労働安全衛生法に基づき、職員の危険及び健康障害の防止を防ぐための基本的な対策について、産業医や衛生管理者等による調査審議を行った。

開催日：4月9日、5月31日、6月29日、7月29日、

8月25日、9月21日、10月27日、11月19日、

12月24日、1月31日、2月28日、3月25日

※開催日は、全て金曜日

②ストレスチェックの実施

労働安全衛生法に基づき、ストレスに関する質問票に職員が記入し、職員自身のストレスがどのような状態にあるのか調べる検査を実施。区社協採用職員が受検した。

③日赤会費（社資）事務への協力

④大阪府共同募金会事務への協力

実施期間：令和3年10月1日～令和4年3月31日

内容：街頭募金活動への協力、助成金配分申請・内容の周知

⑤大阪府生活福祉資金（申込窓口）への協力

新型コロナウイルス感染症により生活困窮による生活資金貸付業務が増加し職員を増員して対応した。

ア 緊急小口資金

電話対応13件 面談回数6回

申込み2件（うち、受理2件）

イ 福祉費

電話対応61件 面談回数20回

申込み1件（うち、受理1件）

ウ 総合支援資金

電話対応13件 面談回数5回

申込み0件（うち、受理0件）

エ 教育支援資金

電話対応23件 面談回数21回

申込み2件（うち、受理2件）

オ 臨時特例つなぎ資金

電話対応0件 面談回数0回

申込み0件

カ 不動産担保型生活資金

電話対応0件 面談回数0回

申込み0件

キ 新型コロナウイルス感染症特例

緊急小口資金申込み 574 件

⑥その他

ア 大阪市社会福祉大会への参加

イ 福島区民まつりへの参加

新型コロナウイルス感染症により中止。

3. 公益事業・介護保険事業・指定管理運営事業

(1) 地域包括支援センター運営事業

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護予防対策や状態に応じた介護・医療のサービスが切れ目なく提供できることを目指し、地域高齢者の心身の健康維持・生活安定のために必要な援助や支援を包括的に提供する。また高齢者虐待の防止および対応や権利擁護に基づき個人の権利を主体的に行使できるように支援を行う。

①総合相談支援

様々な相談に的確に対応できるよう、福祉・保健・医療等関係機関と連携し、本人・家族・近隣住民・地域等からの相談に対応。また、下福島・野田在宅サービスステーションに総合相談窓口(ブランチ)を委託し、各地域の相談に対応。

相 談 機 関	延べ相談件数
地域包括支援センター	5, 529 件 (前年度 6, 034 件)
総合相談窓口 (下福島・野田ブランチ)	3, 052 件 (前年度 2, 280 件)

②権利擁護・高齢者虐待防止への取り組み

ア 総合相談で、権利擁護の支援が必要な高齢者に対して、保健福祉センターや関係機関と連携をとりながら、成年後見制度等の活用支援を行った。

a 成年後見制度に関する相談 延べ 76 件

イ 虐待の疑いのある高齢者に対し関係機関と協力し対応を行った。

a 高齢者虐待に関する相談 延べ 211 件

- ウ 虐待の緊急性・虐待の有無、状況確認、対応計画の策定、終結等の判断を行う「サービス利用調整会議」の参加 延べ28回
- エ 町会長対象の虐待講座を実施（10回）

③予防給付に関するマネジメント

要支援1・2の要支援認定者や家族の希望、生活機能等の把握、課題の分析を行い、介護予防サービス計画を作成し地域での生活を支援。

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
認定者数(人)	747	573	459	537	450	468	301
備考	認定総数 3,535人 うち要支援1・2ケアプラン作成委託件数 月平均約715件						

※令和3年10月1日時点における介護保険システムからの抽出情報

④包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア 地域ケア会議

- a 医療・介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める地域ケア会議を開催した。（11回開催）
- b 要支援者等の生活行為の課題の解決、状態の改善に導き自立を促すQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上を目指して、「自立支援型ケアマネジメント検討会議」を開催した。（13回開催）

イ 総合相談窓口連絡会議

地域の相談窓口（ランチ）である阪神長楽苑（下福島ランチ）、福島ともしび苑（野田ランチ）、認知症初期集中支援チームと毎月1回連絡会を開催し、地域の相談状況や支援内容の検討、介護予防啓発等の情報交換を実施。（14回開催）

ウ 地域における居宅介護支援事業所の後方支援

- a 福島区内で業務を行う、ケアマネジャーの支援のため、相互の情報交換、研修会等を開催。（7回開催）
- b 日常的に処遇困難な事例に関するケアマネジャーへの個別支援

延べ 895 件

⑤ 関係機関のネットワークの形成

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年に比べ連絡会の開催数は減少したが、アンケートによる意見交換やオンラインを活用し、ネットワークの構築に努めた。

ア 区内、近隣区の事業所の相互の情報交換・資質の向上と、住民にとってよりよいサービスをめざし、各種連絡会を開催。

a 福島区ホームヘルパー連絡会（2回開催）

b 通所事業者連絡会（1回開催）

c 訪問看護事業所連絡会（1回開催）

d 介護ホーム連絡会（1回開催）

イ 医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護事業者等と連携し「福島区在宅医療を考える会」を共催。

a 在宅医療を考える会 世話人会（3回開催）

b 在宅医療を考える会研修会

開催日	内 容	参加人数
2月21日	口腔機能について～オーラルフレイルとは～ 講師：医療法人美和会 平成歯科クリニック院長 大阪府歯科医師会 理事 小谷 泰子 氏	43人

ウ 健康展

a 健康展実行委員会（1回）

b 紙上健康展（広報ふくしま12月号）

エ 関係機関の会議参画

a 在宅医療・介護連携支援コーディネーター連絡会（11回）

b 地域福祉コーディネーター連絡会（12回）

c 高齢者支援部会（生活支援体制整備事業協議体）（4回）

d キャラバン・メイト連絡会（6回）

e 自立支援協議会（3回）

f 社会福祉施設連絡会（1回）

⑥ 出張相談会・イベント等の実施

- ア 介護保険やその他の相談に関して、各地域コミュニティセンターや集会所などに出向き相談を受け付けた。
- イ 複合した相談等にも対応できるよう、地域自立支援協議会等と連携し、区役所1階にて出張相談会を開催。（8回実施）
- ウ 大阪福島郵便局ATM前にて、ランチと連携し、介護なんでも相談会を開催。（年金受給日の午前3回実施 ※緊急事態宣言中を除く）
- エ イオン薬局と共催し、毎月15日イオン野田阪神店で、高齢者なんでも相談会を開催。（8回実施 ※緊急事態宣言中を除く）
- オ 大阪厚生信用金庫大淀支店内で介護なんでも相談会を開催。（2/15午前実施。令和4年度より年金支給日に定例開催。）
- カ 認知症サポーター養成講座の参画。（7回）
- キ 集合住宅での出張相談会・イベントの実施。（4か所5回実施）
- ク 地域の課題抽出会議（12/21野田地域で民生委員対象にグループワークを実施）
- ケ 認知症啓発映画上映会「99歳 母と暮らせば」（1/22 区民センターで実施。参加者49名）
- コ 認知症高齢者が売り子のキッチンカーイベント「てへぺろキッチンカー」の参画。（10/17 ころあいい海老江で実施。参加者57名）
- サ 「福島区シニアのための暮らしのお役立ち情報ガイド」発行。（令和3年12月、2,000部発行）

⑦認知症強化型地域包括支援センターの運営

認知症初期集中支援チームを置く認知症強化型地域包括支援センターとして、認知症高齢者を支援する区内ネットワークの充実を図り、大阪市が取り組む認知症にかかる地域包括ケアシステムの構築を推進し認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることをめざした。

- ア 認知症初期集中支援チーム員会議への参画…12回
- イ 実務者レベルの会議開催…2回
- ウ 代表者級会議の開催…2回

(2) 【家族介護支援事業】 家族介護者のつどい(かいご泣き笑い会)

日常介護している家族が、勉強会や施設見学・交流会を行うことにより、介護について一人で悩まないことを目的とした事業を実施。

開催日	内 容	参加人数
5 月	中止	
7 月 1 5 日	アロマセラピー講座	1 0
9 月	中止	
1 1 月 1 5 日	コロナ禍における生活不活発病予防におけるヒントについて	1 5
1 月 2 0 日	手軽に続ける食習慣・元気で長生き	1 5
3 月 1 7 日	福祉用具の使い方について	1 1

(3) 【認知症初期集中支援事業】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続することができるよう、医師と医療・介護福祉の専門職で構成する認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

① チーム員の活動

適切な医療や介護サービス等に結びついていない、認知症または認知症の疑いのある方及びその家族を訪問し、アセスメントや受診勧奨、家族支援等の初期支援を包括的集中的に行い、自立生活のサポートを行う。

② 地域支援推進員の活動

認知症の方を支援するネットワークの構築・推進のため、認知症カフェの運営推進、認知症サポーター養成講座への協力など、認知症になっても暮らしやすい町づくりのための活動を、様々な機関や団体と連携しながら行う。

(具体的な活動内容)

- ア 医師・包括相談員・チーム員・地域支援推進員で、支援ケースの方向性を検討するため、認知症初期集中支援チーム員会議開催… 12回
- イ 認知症初期集中支援チーム対応ケース（若年性認知症の相談含む）… 42件
- ウ ネットワーク構築・推進にかかる会議等への参画… 89回
- エ 事業の推進・広報啓発活動実績（案内チラシの配布等）… 73か所
- オ 関係者会議への参加… 2回
- カ 代表者級会議への参加… 2回
- キ 認知症カフェへの側面的支援… 35回
- ク その他
 - a 認知症啓発上映会「99歳 母と暮らせば」（1/22 区民センターで実施。参加者49名）
 - b きらめきセンターでの認知症ミニ講座「脳と体のエクササイズ」（2/22参加者9名、2/24参加者10名）
 - c 認知症に関するパネル展（9/13～9/24福島区役所1階ロビー）

（４）【オレンジサポーター地域活動促進事業】

認知症地域支援コーディネーターを配置し、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしつづけられるよう、認知症の方を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症の方の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図った。

- ① 事業等の広報・周知活動実績… 38件
- ② 地域の生活支援ニーズと認知症サポーターの把握
 - ア 地域の生活支援ニーズ把握実施数… 21回
 - イ 認知症サポーターの把握人数… 35人

③企業・団体への講座の受講や登録の推奨

ア オレンジパートナー企業・団体の登録… 3 件

イ オレンジパートナー社会貢献活動の周知 大阪市社会福祉協議会ホームページに掲載

④ちーむオレンジサポーターへの後方支援

ア ステップアップ研修受講者数… 3 人

イ ちーむオレンジサポーターの登録… 1 件

(5) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方への日常生活自立支援事業について、地域での利用待機の解消および今後の利用希望追加のニーズにこたえるため、区社協において相談から契約、福祉サービス等利用援助および日常金銭管理・書類等預かりサービスの提供を行なった。なお、福祉サービス等利用援助、日常金銭管理サービス等の提供にあたっては、一体的に実施した。

① 相談及び対応件数 1, 629 件（前年度 2, 929 件）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他
682 件	570 件	375 件	2 件

② サービス利用者数(令和 4 年 3 月末現在) 21 人(前年度 27 人)

③ 委任契約締結件数 3 件（前年度 0 件）

④ 委任契約終了件数 9 件（前年度 7 件）

(6) 介護予防事業

① 介護予防教室事業（あいあい教室）

月 1 回、コミュニティセンター、福祉センターで要支援・要介護状態をできる限り予防し自立した生活が送れるよう講座を開催。

実施地域	延べ参加人数		
	4～9月	10～3月	合計
上福島 地域	28	80	108
福島 地域	21	65	86
玉川 地域	57	88	145
野田 地域	27	73	100

吉野地域	27	77	104
新家地域	19	48	67
大開地域	21	45	66
鷺洲地域	5	33	38
海老江東地域	15	47	62
海老江西地域	44	62	106
合計	264人 (前年度254人)	618人 (前年度514人)	882人 (前年度768人)

※全地域：令和3年5月、8月中止

※上福島、福島、吉野、新家、海老江東：令和3年6月、9月中止

※野田：令和3年4月、9月中止

※大開：令和3年9月中止

※鷺洲：令和3年4月、6月、9月、令和4年2月、3月中止

※海老江西：令和3年6月中止

②介護予防運動クラブ（区社協独自事業）

ア 介護予防運動クラブ「ベーシック」「スタンダード」

複合型介護予防教室事業の設備や講師のノウハウを活用し、区社協独自の介護予防運動事業を実施した。

実施期間：令和3年4月19日～令和4年3月28日の月・水・金曜日

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方

定員：6人（抽選）

参加費：9,000円（全30回分）

【参加人数一覧（延べ人数）】 (人)

	月曜 コース	水曜 コース	金曜 コース	計
ベーシックコース	90	72	91	253
スタンダードコース	82	100	44	226
計	172	172	135	479 (前年度612人)

※緊急事態宣言の発令により、4月26日～6月30日中止。

※三密を防止するため、1クラス最大6名までの定員とした。

イ 介護予防運動クラブ「フリークラス」

介護予防運動の継続的な取り組みの重要性と参加者の継続実

施の要望から、フリー教室(全4回)を実施した。

実施期間：令和3年4月13日～令和4年3月17日の火・木曜日

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方〔定員6人(先着順)〕

参加費：9,000円(全30回分)

【参加人数一覧(延べ人数)】 (人)

	火曜コース	木曜コース	計
フリー教室①	82	68	150
フリー教室②	77	58	135
計	159 (前年度：209)	126 (前年度：154)	285 (前年度：363)

※緊急事態宣言の発令に伴い、4月13日～7月27日すべてのフリークラスを中止した。

※三密を防止するため、1クラス最大6名までの定員とした。

③あいあい健康体操教室(区社協独自事業)

健康運動指導士による、椅子に座って行う簡単なストレッチ体操やトレーニングを通して、筋力の維持・向上を図る健康体操教室を実施した。

実施日時：金曜日(第1部、第2部)

実施回数：31回

参加人数：延べ329人

参加費：3,000円(5回分)

(7) 地域密着型通所介護事業(デイサービスセンター)

①月別利用者数

		月末契約人員(人)	利用人員(人)
令和3年	4月	24	173
	5月	20	116
	6月	21	156
	7月	21	122
	8月	24	158
	9月	25	162
合計		135人 (前年度480人)	887人 (前年度2,428人)

※令和3年9月30日で事業休止

②年間利用者数

契約実人員	34人
実施日数	122日/年間
平均利用者数	7.2人/日

(8) 子ども・子育てプラザ事業

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、事業の運営を行った。

前年度に引き続き、つどいの広場・児童の自由遊びは利用時間を決め、部屋ごとに定員を設定し、事前予約制とした。利用者の入れ替え時には消毒を実施し、室内には消毒液・ウェットティッシュを常設し、随時消毒できる環境を整えた。

講座については定員を設定し、参加者が密にならないよう配慮したが、講座の内容により開催を中止した。例年参加者が多いイベントについては、少人数で複数回実施し、できるだけたくさんの利用者が参加できるよう工夫した。

また、令和3年度は地域の子育てサロン支援や地域交流、アウトリーチのイベント開催を徐々に再開した。

①子育て活動支援事業

ア 子育て情報の収集・管理・提供

a 講座等の情報を広報紙とホームページにより広く提供

- ・プラザだよりの発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・12回
- ・ホームページの情報更新・・・・・・・・・・・・・・・・・・随時

b 区保健福祉センターで実施される赤ちゃん広場等に出向き、情報提供

イ 地域の自主的な子育て活動への支援

a 地域の子育てサークルへの活動場所の提供、遊具等の貸し出しを実施

- ・おもちゃ病院への活動場所提供・・・・・・・・・・ 8回
- ・遊具の貸し出し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7回

b 子育て支援ボランティア養成講座・ステップアップ講座の実施

内 容	開催回数	参加人数
地域子育て支援活動者研修	6回	22人

c 地域子育てサロンへの出前講座の開催

- ・出前講座の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8回

ウ 子育て中の親子の支援

a 子育て中の親子が参加しやすいよう、様々な子育て支援講座を実施。

内 容	開催回数	参加人数	内こども(人)
ベビーマッサージ（1回中止）	11回	116人	58人
ウキウキ身体測定（2回中止）	10回	316人	165人
英語を楽しもう	1回	30人	16人
親子ふれあい遊び（1回中止）	11回	292人	156人
ハロウィンの写真を撮ろう!!	6回	121人	64人
節分工作	6回	109人	62人
食育講座	1回	30人	16人
おひなさまをつくろう	6回	127人	73人
おはなしのじかん	2回	112人	57人
クリスマス会	4回	92人	50人
2歳児の広場（3回連続・3クール・2回中止）	7回	70人	35人
ファミリー講座	1回	17人	7人
マタニティヨガ	3回	14人	1人
プレママ・プレパパ講座（1回中止）	2回	13人	
似顔絵を描いてもらおう（3回中止）	3回	36人	18人
こいのぼりをつくろう	中止		

七夕かざりをつくろう	6回	86人	44人
しゃぼん玉であそぼう	1回	44人	23人
歯のおはなし	中止		
バルーンでクリスマスリースをつくろう	1回	55人	31人
パパのための読み聞かせ講座	中止		
にっこりキッズ	1回	27人	14人
離乳食講座	中止	4人	0人
親子クッキング（1回中止）	1回	4人	2人
音楽コンサート	1回	39人	15人
いっしょにあそぼう（こどもの日）	中止		
かわいいうちわをつくろう	1回	61人	31人
プラザまつり	1回	121人	66人
みんなで防災について学ぼう	1回	19人	10人

エ 児童の健全育成

児童が楽しく参加できるよう、様々な行事を実施。平成29年度より、7月21日から8月31日の夏休み期間中は月曜日と祝日も開設。プラザから遠い地域の児童対象の講座を区民センターにて実施した。

開設日：火曜～日曜（祝日・年末年始等を除く）

7月21日から8月31日の間の月曜

開設時間：午前9時30分～正午

※正午～午後1時 換気・消毒

午後1時～午後2時30分

※午後2時30分～午後3時 換気・消毒

午後3時～午後4時30分

開設日数：305日／年間

利用人数：4,817人／年間（前年度3,771人／年間）

内 容	開催回数	参加人数
アイロンビーズでキーホルダーを作ろう	2回	6人
けん玉教室	4回	32人
たのしもう！クリスマス会	1回	8人
新春お楽しみ会	1回	9人
進級お楽しみ会	1回	2人
卓球の日	10回	30人
プラバンでキーホルダー作り	1回	2人
点字と工作で楽しもう	1回	7人
パクンとなる魚を作ろう	1回	6人
ボードゲームを作って遊ぼう	1回	6人
《こどもボランティア活動》		
クリスマスツリーのかざりづくり	1回	8人
おはなしのじかん	6回	0人
いっしょにあそぼう（こどもの日）	中止	
プラザまつり	1回	11人

オ 地域関連事業

併設の老人福祉センターで開催する盆踊りへの参加と老人福祉センターとの共催で節分工作、また、囲碁将棋教室との共催で将棋大会と囲碁大会を予定していたが、中止となった。

内 容	
将棋大会	中止
囲碁大会	中止
きらめきセンターの盆踊りに参加しよう	中止
節分工作と豆まき	中止

②ファミリー・サポート・センター事業

大阪市ファミリー・サポート・センター事業の支部業務を実施

活動件数：236件（前年度487件）

令和4年3月31日現在の会員数

依頼会員	提供会員	両方会員
116人	44人	4人

③地域子育て支援拠点事業（つどい広場事業）

ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

0歳～就学前の乳幼児とその保護者が、自由に交流できる場所を提供

開設日：火曜～土曜（祝日・年末年始等を除く）

開設時間：午前9時30分～午前11時30分

※午前11時30分～正午 換気・消毒

正午～午後2時

開設日数：247日／年間

利用人数：7,248人（うち乳幼児3,926人）／年間

（前年度8,923人（うち乳幼児4,786人）／年間）

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
手形のお誕生日カード（2回中止）	10回	150人	75人
お誕生日会（2回中止）	10回	231人	123人
ちっち☆ひまわり（1回中止）	1回	27人	14人
ブックスタート（2回中止）	10回	86人	46人

イ 子育て等に関する相談、援助の実施

利用者が相談しやすい関係作りに努め、内容に応じて情報を提供し、関係機関との連携により利用者の不安が軽減するよう援助。

ウ 地域の子育て支援関係機関・グループとの連携

地域での子育て支援を実施するため、関係機関・グループと連携し、公共機関等に出向いて、親子交流や地域支援活動等を実施する。

内 容	開催場所	開催回数	参加人数
-----	------	------	------

しゃぼん玉	福島公園	1回	71人
出張ひろば	イオン海老江	中止	
出張ひろば	ウイステ	中止	
出張ひろば	セブンイレブン	3回	17人

エ ブックスタートの実施

福島図書館とボランティアによるブックスタート事業を実施。

④福島区において実施する独自事業

ア 子育て情報誌の編集委員会の開催。

a 子育て情報誌「フッピーキッズ」の編集委員会の開催（3回発行）。

b 子育てに関する情報提供、「おでかけカレンダー」の発行（年12回）。

イ 子育て支援連絡会における事務局

事務局として子育て支援連絡会を運営し開催。第1回を令和3年6月に、第2回を令和4年1月に開催した。

子育て支援関係機関の情報交換等。

（9）老人福祉センター事業

コロナ禍で、事業計画通りに運営は出来なかったが職員一丸となってこの難局に対応し利用者、職員ともに一人も感染することなく管理運営ができた。指定管理者として三年目であるが令和5年度まで大阪市福島区老人福祉センター（愛称：きらめきセンター）が管理運営する中でコロナ禍での対応に注力した。また、コロナ禍ならではの高齢者一人ひとりが抱える課題や悩みの相談窓口として、区社協（あいあいセンター）と連携して適切な機関に繋げた。

令和3年度は、一般介護予防の通いの場としての機能充実に重点をおいた。そして一般介護予防に係る講座・行事を「福島区高齢者

の生きがいと健康づくり推進事業」に集中させ、年間とおしてつなぎ目なく一般介護予防の各種プログラムを提供できた。

①一般介護予防の推進事業(福島区高齢者の生きがいと健康づくり推進事業)

一般介護予防を目的とする健康づくり事業として、健康づくり3講座を年間30回実施するとともに健康いきいき教室を年間10回開催した。また、気軽に参加できる健康づくりとして、百歳体操を毎週2回、年間83回実施し1,518人が参加された。それにより年々高まる高齢者の健康づくりに対する要望に応えた。

ア 健康づくり講座

事業名	開催回数	参加人数	備考
座ってビクス	10回	171人	7～12月(計10回)
モビバン体操	10回	183人	7～12月(計10回)
健康体操	10回	150人	7～12月(計10回)
合計	30回	504人	

※感染予防として通常定員の50%で実施

イ 健康・体力づくり行事

事業名	開催回数	参加人数	備考
健康いきいき教室	10回	181人	7、8月の夏季5回、1、2月の冬季5回
いきいき百歳体操	83回	1,518人	毎週火曜、木曜
卓球ひろば	18回	231人	一部休止(コロナ禍)
ディスコン広場	7回	52人	一部休止(コロナ禍)
ダンスで楽しく健康に	10回	284人	令和3年度新規企画
介護アロマセラピー	1回	6人	7/13

合 計	129回	2,272人	
-----	------	--------	--

※感染予防として通常定員の50%で実施

②生きがいつくり事業

高齢者のいきがいつくり、健康づくり、社会参加などを支援するために各種講座やイベントを開催するとともに、同好会活動の立ち上げ・日程調整・広報等を支援した。

ア 生きがい探究の機会の提供

コロナ禍により「3密」を避ける施策から、「お誕生会」「七夕まつり発表会」「盆踊り大会」「きらめき文化祭」

「中央卸売市場施設見学」等、多数人が集まる行事が休止になった。

感染予防・対策をしっかりと、「もの忘れ防止と体操」、「脳の健康と体操」を実施する等、コロナ禍に即した企画を実施した。

また、スティホーム応援企画として「大人のぬりえ」を実施。

「チャレンジ数独」と同じく脳トレと認知症予防を兼ねて実施した。

事業名	開催回数	参加人数	備考
介護予防ポイント事業登録研修会	1回	1人	コロナ禍、既に登録済の方多い
スマホ体験講座オンライン	1回	8人	前年の繰越
きらめき七夕まつり	1回	36人	笹飾りのみ
風鈴まつり	1回	多数	館内を風鈴飾り
「相続」渡す人と引継ぐ人、それぞれの立ち位置から考える	1回	12人	7/15
災害時の対策(福島区役所)	1回	18人	7/20出前講座
多肉植物の苔テラリウム	2回	31人	10/15、20

ヤクルト健康セミナー「生活習慣病とその予防」	2回	20人	8/24、25
菅細工「コースターの作成」	2回	17人	12/3、17
「健康寿命を延ばそう」 福島区役所出前講座	2回	26人	12/21、23
スマホ体験講座 1【区社協共催・区役所協力】	1回	18人	1/12
スマホ体験講座 2	1回	11人	2/2
雪印食育講座「骨の役割とカルシウムの働き」	1回	11人	1/18
漢字DE脳トレ	1回	9人	1/21
ヤクルト「オンライン工場見学」	2回	19人	2/15、17
脳と体のエクササイズ～脳をいきいき・体も元気～	2回	19人	2/22、24
DVD鑑賞会「関西大学応援団吹奏楽部」	2回	25人	3/8、10
大阪弁護士会「高齢消費者講座」悪質被害から守るために	1回	4人	3/22
施設見学「パナソニックミュージアム」	1回	14人	3/24
施設見学「中央卸売市場」	0回	0人	休止(コロナ禍)
チャレンジ数独	常時	5,556人	一日平均22人
大人のぬりえ	常時	898人	一日平均4人
合計	(26回)	(6,753人)	

※風鈴まつりの人数は除く

イ 同好会・サークル活動支援

同好会の立上げから、同好会間の日程等の調整、会員募集の広報を実施し、同好会の公平で健康な活動を支援した。令和4年3月現在25の同好会が登録。コロナ禍により大阪市より要請があり、3密、大声を出す、激しいスポーツ、飲食に関わる同好会活動は停止。

事業名	開催回数	参加人数	備考
初級囲碁教室	29回	97人	毎週月曜日午前
ネット囲碁	53回	225人	毎週水曜日午後
ダーツ	29回	136人	毎週水曜日午後
折り紙	18回	259人	第2水曜日 第3土曜日
絵画	12回	78人	第2・4木曜日
俳句清和会	5回	38人	第2土曜日午後
詩吟	12回	87人	第2・3土曜日
卓球1 卓球2	2回	7人	第1～4火曜日 第1～4金曜日 第1土曜日(1、2部交互に)
カラオケ1 カラオケ2	0回	0人	休止(コロナ禍)
民踊	28回	251人	第1～4月曜日 第1・3木曜日
ティーセレモニー	5回	18人	第3木曜日
生花(嵯峨御流)	7回	52人	第4水曜日

			(8月休み)
書道細字	4回	68人	第4月曜日
書道	8回	72人	第2月曜日
大正琴	8回	61人	第1・3月曜日
シニア元気クラブ	18回	350人	第1・3金曜日
フラダンス・プア	26回	161人	第1・3木曜日
ゲーム1	44回	381人	第1～4木曜日
ゲーム2			第2・4金曜日
笑いヨガ(幸福島クラブ)	0回	0人	休止(コロナ禍)
シニアフィットネス	9回	134人	月数回水曜日 (不定期)
リズムセラピー	0回	0人	休止(コロナ禍)
新舞踊	19回	58人	令和3年途中解散
銭太鼓	1回	4人	令和3年途中解散
合 計	337回	2,537人	

※囲碁・将棋は、毎日月～土曜日の午後より開催。自由参加となっている。年間で延べ約4,000人が利用した。

③相談・情報機能の充実

ア 身近な相談体制づくり

高齢者の身近な相談窓口として、「あいあいセンター」をはじめ、関係機関につなげる機能の充実に努めた。利用者との情報交換のなかで、相談事項の拾い上げを行い、高齢者に係る問題をテーマにした講座を開催した。

イ 公的情報ならびに健康及び生活関連の情報提供

福島区役所、警察署、消防署の公的機関の情報を高齢者に適時、

適確に伝えることを目的に当該年度も引き続き、防犯・交通安全、防災・防火等の啓発を図る情報提供を行った。また、コロナ関連情報もタイムリーに提供した。3月予定の区長と高齢者の対話集会「きらめきミーティング」は、2年ぶりに第8回を開催し大盛況であった。

④ 利用者の自律したセンター運営の推進

コロナ禍なので、同好会の代表者を一同に介した「利用代表者会」はやめ、「個別代表者打合せ」とした。利用者が自主、自立的にセンター運営に関われるように努めた。

コロナ禍における対応については同好会と意見交換を行い、同意と理解のうえ対応を図った。

⑤ 老人クラブ活動の支援

単位老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の業務及び同会が実施する行事を支援した。令和3年度は前年に引き続き定例の教養講座交流発表会、カラオケ大会を支援予定もコロナ禍で中止となった。「歩こう会」できらめきセンター日より、チャレンジ数独・大人のぬりえのサンプル等を配布しコロナ禍でのホームステイを支援した。

⑥ 世代間交流事業

区内の保育所・学校園の子どもと高齢者がふれあう行事、イベントを企画もコロナ禍で全て中止となった。

事業名	開催回数	参加人数	備考
お誕生日会 (海老江保育所)	0回	0人	休止(コロナ禍)
盆踊り大会(海老江保育所、 子ども・子育てプラザ)	0回	0人	休止(コロナ禍)
きらめき文化祭 (海老江保育所)	0回	0人	休止(コロナ禍)

節分お面づくりと豆まき (子ども・子育てプラザ)	0回	0人	休止(コロナ禍)
合計	0回	0人	

⑥ 合同事業

事業名	開催回数	参加人数	備考
認知症サポーター教養講座	1回	25人	11/11 区社協オレンジ チーム
福島区老連カラオケ大会	0回	0人	休止(コロナ禍)
第8回きらめきミーティング	1回	22人	3/15
合計	2回	47人	

⑧ その他

ア 囲碁将棋大会(同好会主催定例会)

囲碁: 休止(コロナ禍)

将棋: 休止(コロナ禍)

イ 春・秋カラオケ発表会(カラオケ同好会主催) 休止(コロナ禍)

[実績報告]

① サービス向上策

施設運営委員会を通じて地域の意見・要望を広く求めるとともに、同好会等の「個別代表者打合せ」を適宜開催し、利用者の意見をセンター運営に反映させてサービス向上に努めた。

② 利用促進策

センター行事等の情報を提供する「センターだより」の内容の充実に努めたのをはじめ、市・区社協のホームページ及び区の「広報ふくしま」、区社協の「あいあいだより」を活用した広報活動の充実に

図った。また利用者個々のニーズ把握に努め、行事等の立案・運営に反映する事により、利用率向上に努めた。

③利用者の満足度の把握について

「個別代表者打合せ」を通じて意見を直接収集するとともに、アンケートの適宣実施によってニーズの把握に努めた。

④平等利用の確保について

「施設運営委員会」を開催し、意見・助言を聴取して平等・公正な運営に努めた。

⑤他施設との連携、地域との連携、市民・NPOとの協働等

併設の海老江保育所、子ども・子育てプラザをはじめ、福島区食生活改善推進員協議会、福島区健康推進協議会と連携した恒例のお誕生日会はコロナ禍で残念ながら中止となった。その中で高齢者施設運営協議会との情報共有と連携に努めた。

⑦建物の維持管理の取組みについて

蛍光灯の約半数をLED化工事した。令和4年度に全数をLED化する予定である。パッケージエアコンは23年ぶりに全数、全面更新を図った。これにより利用者から快適になったとの意見が多数あった。また、日常の清掃時の点検を基本に定期的に館内巡視を実施し、引き続き軽微なものについては職員が修繕を行った。

⑧危機管理について（事故防止等安全対策、火災時緊急時の対応）

当センターは、区役所との協定によって災害時に福祉避難所として供用するため、12月4日にはあいあいセンターと連携して大規模災害を想定した災害訓練に参加、福祉避難所開設の現地訓練を行った。

⑧個人情報の保護・情報公開について

「大阪市個人情報保護条例」、「大阪市情報公開条例」をはじめ、

当協議会の「個人情報保護規定」により、情報の漏洩や利用証の管理を的確に行い、引き続き個人の権利・利益の侵害防止に努めた。

⑨ 過去4ヵ年度の利用者数の推移 (人)

	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
年間利用者 (延べ人数)	29,895	27,866	12,145	13,982
月平均 (延べ人数)	2,491	2,322	1,012	1,165
一日平均 (延べ人数)	102.4	105.5	53.9	55.5

※令和3年度は、緊急事態宣言等による臨時休館の日数を引いて稼働日は、250日で算出している。